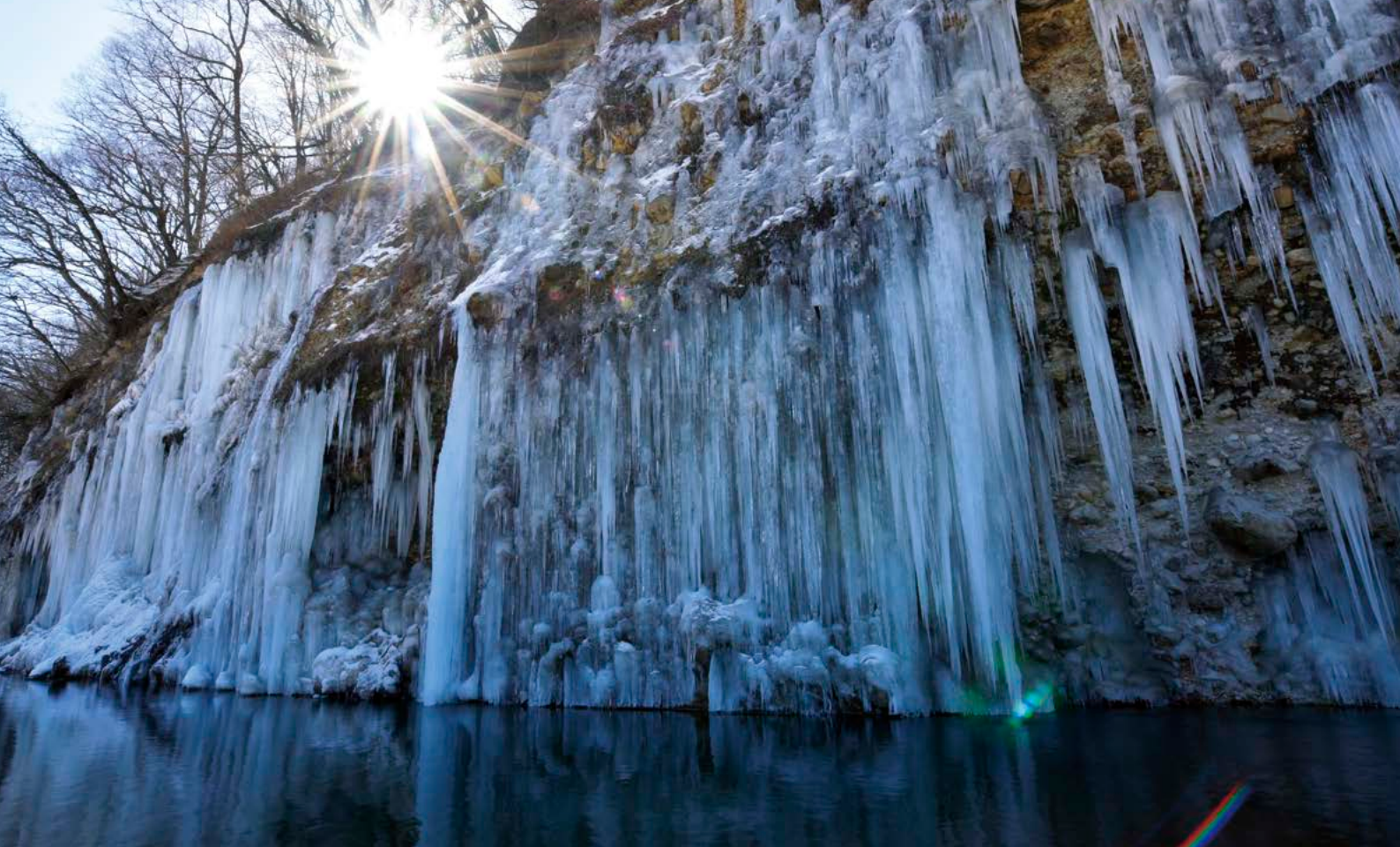




写真：凍てつく朝に（撮影地：木曾福島 白川氷柱群）（撮影：題佛 真覚実）

新年明けましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症による行動制限が日常化して4年目を迎えます。新生会第一病院は、2018年5月に天白区に新設移転してまいりましたが、コロナ対策に忙殺され、地域に開かれた病院づくりはなかなか進められませんでした。

そうした制約の中で、2022年8月に、「慢性腎臓病（CKD）」の教育入院を再開いたしました。当院の特色である腎透析療法を含めた腎臓病に対する専門知識を生かし、医師・看護スタッフ・管理栄養士・セラピストなど多職種が共同して、新しいプログラムを作成しました。

「慢性腎臓病（CKD）」は、20歳以上の成人8人に1人が罹患している新たな国民病とされています。この疾患は自覚症状がないことが多く、ご自身では気づきにくい疾患です。しかし、進行すると血液透析を始めとする腎代替療法が必要となります。ですから自覚症状のない早期に発見し、進行を防ぐことが重要です。腎臓の状態は血液検査を行うことで、簡単に確認することができます。お気軽に当院にご相談いただければ、「慢性腎臓病（CKD）」に対する検査ならびに生活指導をさせていただきます。地域のみならず、皆さまの健康増進に貢献してまいりますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

緩和ケア・3Dチームの活動



療養病棟看護師 緩和ケア・3Dチーム 堀池 沙季

日本国内の高齢化と同様に透析患者さんの高齢化も進んでおり、透析患者さんの中でもがんなどの重篤な病や認知症などの加齢変化を抱えながら生活されているかたの割合が大きくなっています。

そのような患者さんとそのご家族のクオリティー・オブ・ライフ（QOL）の向上を目的とし、当院では2021年に緩和ケア・3Dチームを立ち上げました。

緩和ケアとは、病でつらさを抱えている患者さんとそのご家族が抱えている痛み・息苦しさ・だるさなどの身体的な痛み、気持ちの落ち込みや不安などの心理的痛み、仕事や家族関係などの社会的な痛みなどを和らげるためのケアのことです。

3Dとは、せん妄・認知症・うつの総称で、認知機能が低下することで日常生活に支障をきたしている状態です。適切なサポートを行うことで、その人らしい生活が長く続けられることを目指します。

伊奈院長を中心とし医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、事務員の多職種でそれぞれの専門知識と経験を生かしてチームケアを行います。

チームのメンバーで回診とカンファレンスを行って、より良い医療を提供できるように努めています。

金曜日の回診では患者さんのベッドサイドまで伺います。どうぞお声をきかせてください。

緩和ケアの院内の体制整備や、スタッフへの教育活動も行っています。





低温やけどを予防しましょう

外来看護師 日本糖尿病療養指導士 山下 紋



低温やけど(低温熱傷)とは？

低温やけど(低温熱傷)とは、温痛覚が正常であれば「温かい」もしくは「すこし熱い」と感じる程度の温度に長時間接していることで生じるやけどです。湯たんぽやカイロなどが原因となることが多いです。通常のやけどと比べて熱源の温度が低いため、長時間触れていても熱さや痛みを感じにくく、やけどが皮膚の深い部分にまで達してしまいます。



糖尿病と低温やけど

糖尿病の人は特に低温やけどを起こしやすいです。これは糖尿病に伴う神経障害によって温痛覚が鈍くなり、ストーブの近くで長時間過ごしたり、湯たんぽやカイロに直接当たっていても熱さに気づきにくいからです。また、一度低温やけどになると、糖尿病による傷の治りにくさが問題となります。さらに易感染性により二次感染を生じると、傷の状態はますます悪化し、最悪の場合は下肢の切断に至ることもあります。

長時間、同じ場所を温めないようにしましょう

低温やけどを防ぐために

①睡眠中は暖房器具を使用しない

睡眠中は温痛覚が正常でも熱さを感じにくく、低温やけどを起こしやすいです。就寝時は先に湯たんぽやあかなどの保温器具で布団のみを温めておき、布団に入るときには保温器具は布団から出すようにしましょう。

電気カーペットなどは就寝時には必ず電源を切るようにします。

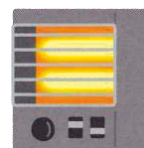


②靴の中に貼り付けカイロを入れない

低温やけどは熱だけでなく、圧力の影響もあり皮膚障害が生じます。足の冷えには靴下を二重履きにしたり、保温性の高い靴を履くなどの対応を行いましょう。

③ヒーターやストーブには近づきすぎない

普段の生活空間のなかで暖房器具との距離をしっかりとることで、不意に寝てしまったとしても低温やけどになることを防げます。



④入浴前にお風呂のお湯の温度を確認しましょう

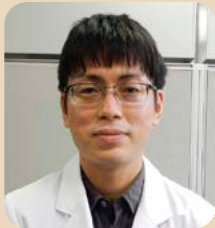
熱さや痛みを感じにくくなる糖尿病神経障害は足先から症状が出てきます。入浴前には手や水温計を使って、お湯の温度を確認しましょう。

参考文献：水野美華 肥後直子編 糖尿病ケア2019年秋季増刊 糖尿病フットケアまるわかりガイド メディカ出版

#IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY #IOSPY

2023年1月1日発行 編集：患者サービス推進委員会 名古屋市中天白区高宮町1302 新生会第一病院 TEL：(052) 808-2100

医師のご紹介 ～新任の医師を紹介します～



田代 温先生

常勤で赴任してきました。
よろしくお願いします。



新生会第一病院の理念と基本方針

- (理念) 新生会第一病院は、地域が必要としている医療と、腎臓病・透析療法の専門的医療を提供し、人々から信頼される「アットホームな病院」をめざします。
- (基本方針) 1. 私たちは、患者さまの権利を尊重し、生命と人生を大切にし、患者さまに満足していただける医療の実践をめざします。
2. 私たちは、自らの成長をととして、医療の質の向上をめざします。
3. 私たちは、保健、医療、介護、福祉機関相互の連携をはかり、地域に開かれた病院づくりをめざします。

患者さまの権利

1. 個人の尊厳が守られる権利
一人の人間として、その人格、価値観などを尊重します。
2. 医療を受ける権利
良質で適切な医療を公平に受けることができる権利を尊重します。
3. 知る権利・学習する権利
病名や病状などの医療情報について十分な説明を受ける権利、また、病気や疾病予防、健康について学習する権利を尊重します。
4. 自己決定の権利
緊急の場合を除き、治療方法などについて、自分自身の意思で選択、又は、拒否することができる権利を尊重します。
5. プライバシー保護の権利
医療上の個人情報には十分に配慮される権利を尊重します。

患者さまの責務

1. 情報を提供する責務
自分の健康や病気について、医療者にできるだけ正確に情報を提供する責務があります。
2. 質問する責務
提示された医療行為の説明を、自分が理解できるまで質問する責務があります。
3. 行動の責務
すべての患者さまが適切な医療を受けられるために、病院の定めた規則を守る責務があります。

新生会第一病院 外来診療体制表

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
一般内科	午 前	○	○	△	○	○	○
腎臓内科		○	○	△	△	○	○
整形外科・リウマチ科		○	○	△	○	△	○
糖尿病・内分泌内科	午 後	○	○	△	○	○	△
シャント外科	予約制	○	○	○	○	○	○
リハビリテーション科	※	○	○	△	○	○	○

診療時間：

午前 9:00 ～ 12:00 (受付時間 8:30 ～ 11:30) /
午後 13:30 ～ 16:30 (受付時間 13:00 ～ 16:00)
(曜日、科により診療時間に変動あり)

◎糖尿病・内分泌内科の日に糖尿病栄養外来、
糖尿病看護外来を実施 ◎リウマチ相談窓口あり

※リハビリ実施時間：

午前 9:00 ～ 12:00 / 午後 13:00 ～ 16:00

人工透析内科：透析ベッド 100 床、午前の部、午後の部あり

新生会第一病院

住所 〒468-0031 名古屋市天白区高宮町1302

電話 (052) 808-2100 FAX (052) 808-3232

ホームページ <https://www.hospy.or.jp/shinseikai/>

※当院外来では、予約制を実施しております。(初診や急変した場合は予約がなくても受付けますのでお電話ください。また、予約の変更がしたい場合等は、電話にてお問い合わせください。)

